

NHK出版

『白い犬とブランコ 莫言自選短編集』より

夜の漁

ノーベル文学賞受賞作家

莫言 著

講師:永井 英美氏

(立命館孔子学院中国語講師)

 $12/3 \ (\pm)$

12:30~14:30

立命館孔子学院図書室

参加無料

本を読むのが 好きな方、 現代中国の小説 に興味がある方、 一緒に読書会を しませんか。

作品冒頭部分

※感想を話し合いますので、なるべく事前 に作品を読んでご参加ください。

テキスト・作品

現在NHK出版『白い犬とブランコ 莫言自選短編集』吉田 富夫訳 定価1,870円(ISBN978-4-14-005436-9)所収の 作品を順に読んでいます。(テキスト購入費は参加者負 担となります。)

一回参加してからテキストを購入したいというお試し参加も歓迎します。事務局にご相談ください。

お申込み方法

前日までに孔子学院事務局まで、電話・FAXもしくは メールにてご連絡下さい。 長いことねだって、九叔はようやくわたしを夜の蟹捕りに連れて行くことを承知してくれた。六〇年代なかばのことだった。毎年洪水で、村から二里も行けば、一面水びたしだった。

夕食がすむと、九叔はわたしを連れて村を出た。出がけに母親が、九叔の言うことをよく聞いてやたらと動き回るんじゃないと、くどくどわたしに言い、九叔にはこの子を頼みましたよと言った。大丈夫ですよ、嫂さんと、九叔は言った。わしがおるかぎり、この子はちゃんと見てますから。——

お申込み・お問合せ先

<u>立命館孔子学院</u>(立命館大学衣笠キャンパス洋洋館2階)

〒603-857 京都市北区等持院北町56-1 立命館大学 衣笠キャンパス洋洋館2階

TEL: 075-465-8426 FAX: 075-465-8429





NHK出版

『白い犬とブランコ 莫言自選短編集』より

愛情

ノーベル文学賞受賞作家

莫言 著

講師: 永井 英美 氏

(立命館孔子学院中国語講師)

 $10/29 (\pm)$ 12:30~14:30

立命館孔子学院図書室 参加無料

※感想を話し合いますので、なるべく事前に作品を読んでご参加ください。

テキスト・作品

現在NHK出版『白い犬とブランコ 莫言自選短編集』吉田 富夫訳 定価1,870円(ISBN978-4-14-005436-9)所収の 作品を順に読んでゆきます。(テキスト購入費は参加者 負担となります。)

一回参加してからテキストを購入したいというお試し参加も歓迎します。事務局にご相談ください。

お申込み方法

前日までに孔子学院事務局まで、電話・FAXもしくは メールにてご連絡下さい。 本を読むのが 好きな方、 現代中国の小説 に 興味がある方、 一緒に読書会を しませんか。

作品冒頭部分

その年の秋、生産隊長は十五になる小弟と六十五になる郭三爺さんを水車に回した。水車をどうするかだと?水を汲み上げるのだ。汲み上げてどうするかだと?白菜に水をやるのである。水道をつけるのは、何麗萍という女の知識青年の役で、年は二十五前後だった。

立秋が過ぎると、白菜は毎日水をやらねばならず、 放っておくと根腐れをおこす。——

お申込み・お問合せ先

立命館孔子学院(立命館大学衣笠キャンパス洋洋館2階)

〒603-857 京都市北区等持院北町56-1 立命館大学 衣笠キャンパス洋洋館2階



NHK出版

『白い犬とブランコ 莫言自選短編集』より

「涸れた河」

ノーベル文学賞受賞作家

莫言 著

講師: 永井 英美 氏

(立命館孔子学院中国語講師)

7/17 (土) 12:30~14:30 立命館孔子学院図書室 参加無料

※感想を話し合いますので、事前に作品を 読んでご参加ください。

テキスト・作品

NHK出版『白い犬とブランコ 莫言自選短編集』吉田富夫 訳 定価1,870円(ISBN978-4-14-005436-9)所収の作品 を順に読んでいます。(テキスト購入費は参加者負担と なります)

一回参加してからテキストを購入したいというお試し参加も歓迎します。事務局にご相談ください。

お申込み方法

前日までに孔子学院事務局まで、電話・FAXもしくは メールにてご連絡下さい。 本を読むのが 好きな方、 現代中国の小説 に 興味がある方、 一緒に読書会を しませんか。

作品冒頭部分

濡れそぼった真っ赤な大きな月が村の東側の暮れなずむ原野から昇ったとき、村の中に立ち込めていた靄(もや)はひときわ濃くなり、かつ月の凄艶な赤い色に染められたように見えた。太陽は沈んだばかりで、地平線にはまだ紫の雲のふとい帯が残っていた。痩せっぽちの小さな星がいくつか、陽と月の間でつかの間、青白い光を放っていた。

村にはある種神秘的な気配に包まれ、犬の鳴き声も猫の鳴き声もせず、ガチョウやアヒルも黙りこくっていた。 月が昇り、陽が沈み、星の光が消えつつあるそのとき、 男の子が一人、半開きの粗末な門から忍び出た。——

お申込み・お問合せ先

立命館孔子学院(立命館大学 国際平和ミュージアム2階)

〒603-857 京都市北区等持院北町56-1 立命館大学 アカデメイア立命21内





NHK出版

『白い犬とブランコ 莫言自選短編集』より

洪水

ノーベル文学賞受賞作家

莫言 著

講師: 永井 英美 氏

(立命館孔子学院中国語講師)

10/9 (土) 12:30~14:30 立命館孔子学院図書室 参加無料

※感想を話し合いますので、事前に作品を 読んでご参加ください。

テキスト・作品

NHK出版『白い犬とブランコ 莫言自選短編集』吉田富夫 訳 定価1,870円(ISBN978-4-14-005436-9)所収の作品 を順に読んでいます。(テキスト購入費は参加者負担と なります)

一回参加してからテキストを購入したいというお試し参加も歓迎します。事務局にご相談ください。

お申込み方法

前日までに孔子学院事務局まで、電話・FAXもしくは メールにてご連絡下さい。 本を読むのが 好きな方、 現代中国の小説 に 興味がある方、 一緒に読書会を しませんか。

作品冒頭部分

祖父(じい)さまが八十八だったある晴れた春の午前のことである。村人たちみんなが、大きな折り畳み椅子に腰を下ろした祖父さまが、わしの家の通りに面した菜園の壁にもたれて目を閉じて休んでいるのを目にしていた。

昼になって、母親に言われて食事にもどるよう、呼びに行った。側に行って大声で呼んだが、反応がない。手で押してみて、はじめて動けないのだとわかった。すぐ家族に知らせ、みんなが飛び出して取り囲み、揺するやら大声で呼ぶやらしてみたが、もはや役には立たなかった。——

お申込み・お問合せ先

立命館孔子学院(立命館大学 国際平和ミュージアム2階)

〒603-857 京都市北区等持院北町56-1 立命館大学 アカデメイア立命21内





NHK出版

『白い犬とブランコ 莫言自選短編集』より

「猟銃」

ノーベル文学賞受賞作家

莫言 著

講師: 永井 英美 氏

(立命館孔子学院中国語講師)

12/4 (土) 12:30~14:30 立命館孔子学院図書室 参加無料

※感想を話し合いますので、事前に作品を 読んでご参加ください。

テキスト・作品

NHK出版『白い犬とブランコ 莫言自選短編集』吉田富夫 訳 定価1,870円(ISBN978-4-14-005436-9)所収の作品 を順に読んでいます。(テキスト購入費は参加者負担と なります)

一回参加してからテキストを購入したいというお試し参加も歓迎します。事務局にご相談ください。

お申込み方法

前日までに孔子学院事務局まで、電話・FAXもしくは メールにてご連絡下さい。 本を読むのが 好きな方、 現代中国の小説 に 興味がある方、 一緒に読書会を しませんか。

作品冒頭部分

人差し指を失った右手で銃を右肩から下ろしたとき、 金色の陽光が彼を包んだ。太陽は滑らかな曲線を描いて 急速に沈んでいき、野面には、不規則な引き潮のような 響きと、濃淡取り混ぜた荒涼たる気配が漂っていた。

銭苔がまだらに生えた地面に銃をそっと置く。湿った地面が目に入って、心に抵抗を感じた。銃身が長くて赤銅色の木の銃床をつけた手製の猟銃は、躰をくねらせるようにしてびしょぬれの地べたに横たわり、そのかたわらに落ちたコーリャンの穂に夕日が射している。穂からは、細く柔らかな黄色い芽が群がって生え、その影が黒い銃身と赤銅色の銃床に落ちて、そこは色が変わって見える。——

お申込み・お問合せ先

立命館孔子学院(立命館大学 国際平和ミュージアム2階)

〒603-857 京都市北区等持院北町56-1 立命館大学 アカデメイア立命21内



NHK出版

『白い犬とブランコ 莫言自選短編集』より

白い犬とブランコ

ノーベル文学賞受賞作家

莫言 著

講師: 永井 英美 氏

(立命館孔子学院中国語講師)

1/22 (土) 12:30~14:30 立命館孔子学院図書室 参加無料

※感想を話し合いますので、事前に作品を 読んでご参加ください。

テキスト・作品

NHK出版『白い犬とブランコ 莫言自選短編集』吉田富夫 訳 定価1,870円(ISBN978-4-14-005436-9)所収の作品 を順に読んでいます。(テキスト購入費は参加者負担と なります)

一回参加してからテキストを購入したいというお試し参加も歓迎します。事務局にご相談ください。

お申込み方法

前日までに孔子学院事務局まで、電話・FAXもしくは メールにてご連絡下さい。 本を読むのが 好きな方、 現代中国の小説 に 興味がある方、 一緒に読書会を しませんか。

作品冒頭部分

高密県東北郷原産のおとなしい白い犬は、何代かつづいたが、純粋種はもう見ることが難しい。いま家々で飼われているのはほとんどが雑種で、たまに白いのがいても、かならず躰のどこかに雑毛があって、雑種の痕跡をとどめている。ただ、雑毛の広さが躰ぜんたいから見て小さく、かつあまり目立たなければ、みんなは習慣で"白犬"と呼んで、ことさらに名と実の一致を求めてあら探しはしない。

全身真っ白で、両の前足だけが黒い白犬が、うなだれて故郷の小川の崩れかかった石橋を通りかかったとき、橋の下のぼくは、澄んだ川の水をすくって顔を洗っていた。——

お申込み・お問合せ先

立命館孔子学院(立命館大学 国際平和ミュージアム2階)

〒603-857 京都市北区等持院北町56-1 立命館大学 アカデメイア立命21内

